

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 実施自治体名 | 課題の類型1 | 課題の類型2 | 課題の詳細 | 左記課題の解決のために本事業で取り組むこと | 本事業で達成する目標(アウトカム) | 目標の達成度を測る指標 | 現状の数値 | 単位 | 本年度の目標値 | 本年度の実績値 | アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等) | 目標等の公表先 |
|-------------|-----------|-----------------|--|--|---|--|-------|----|---------|---------|--|---|
| 082201_つくば市 | ①学校運営上の課題 | 社会に開かれた教育課程への対応 | つくば市においては、令和4年度から段階的に学校運営協議会を導入している。地域学校協働活動をその動きと一体的に推進していくことが求められるが、学校の経営層(管理職)ではない一般の教員層に地域学校協働活動をはじめ「社会に開かれた教育課程」の重要性を実感を持って認識してもらうことに課題がある。 | ・学習チューターの学習支援の現場に、教職員も協働して携わり、コミュニケーションを実際にとることで、信頼関係を醸成していく機会とする。 ・学習チューターと教職員の間で学習支援に関するフィードバックをしあえるようアンケート結果を共有していく。 | つくば未来塾事業に関係することで、地域の人的資源の活用を通して社会と連携し、学校教育に生かしていく実感を味わう機会を創出する。 | 教職員に実施するアンケートにおいて、その中の「学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だと思いましたか。」という項目に「あてはまる」と回答する教職員の割合 | 53 | % | 60 | 56.2 | 2 現状の数値は上回ったが、目標値に到達するには至らなかった。本事業の目的や主旨が教職員に十分伝わっていない可能性がある。 来年度は、教務主任会等を通じて、つくば未来塾の目的を再度周知するとともに、教職員の負担軽減の観点から、運営方法等に関するアドバイスを行う。また、学習チューター登録の際の設問を工夫し、より学校のニーズに合ったチューターを配置できるようにする。 | https://www.city.tsukuba.lg.jp/ksosodate/kyoiku/shogaigakushu/1012220.html |
| 082201_つくば市 | ②学校と地域の課題 | その他 | つくば市において、地域学校協働活動の環を広げていくにあたり、学習支援に限らない幅広い活動への理解がある人材を確保していく必要がある。 | ・学習チューターが学習支援を通して得られる満足度を上げるとともに、「地域とともにある学校」という考え方について気づきを与えるための情報提供や啓発活動をチューターへのオリエンテーションやフィードバックにより行う。 | つくば市における地域学校協働活動に理解を示し、今後の地域のリソースとなりうる地域住民を増やす。 | 学習チューターに実施するアンケートにおいて、その中の「今後もつくば市の事業において御協力をいただけますか。」という項目に「あてはまる」と回答する学習チューターの割合 | 85 | % | 90 | 86.5 | 2 現状の数値は上回ったが、目標値に到達するには至らなかった。アンケートに回答した学習チューターの90%近くが今後もつくば市の事業に協力したいと回答しており、学校と地域の連携という観点から相当な効果は得られていると分析しているが、より幅広い人材を確保する必要がある。 来年度は、学習チューター募集チラシやホームページの記載内容を見直し、より広範な人材の確保につなげていく。 | https://www.city.tsukuba.lg.jp/ksosodate/kyoiku/shogaigakushu/1012220.html |
| 082201_つくば市 | ③学校と家庭の課題 | 家庭等における学習習慣の定着 | 生徒の学習上のつまずきにより、基礎学力を向上させ、学習習慣を定着させることに課題が生じている。 | ・地域のボランティア人材が、各中学校に学習チューターとして入り、生徒一人ひとりとコミュニケーションを取りながら学習のサポートを行う。 ・各校で生徒の実態や各校の実情に応じた実施時期や日程等を検討した上で効果的な計画を立案し実施する。 ・一人一台端末等の活用を促すことで、学習チューターによるプッシュ型の学習支援のみではなく、主体的に学ぶ機会を提供する。 | つくば未来塾事業に参加することをおして、学習習慣を定着させ、自ら意欲的に学ぶ生徒の割合を増やす。 | 参加生徒に実施するアンケートにおいて、その中の「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか」という項目に「あてはまる」(※)と回答する生徒の割合 | 60 | % | 70 | 56.3 | 2 現状の数値を下回る結果となった。アンケートに回答した半数以上の生徒が継続的な学習に意欲を示しているが、更なる学習習慣の定着のため、より効果的な学習支援を行う必要がある。 来年度は、事業開始前に学習チューターを対象として行うオリエンテーションにおいて、本事業の趣旨を再度伝えた上で、生徒により積極的な働きかけを行うよう周知するとともに、アンケート項目を見直し、学習習慣の定着についてより正確に分析できるようにする。 | https://www.city.tsukuba.lg.jp/ksosodate/kyoiku/shogaigakushu/1012220.html |